

カメムシの発生が多く見られます

カメムシ等の予察調査を6月～8月の間、地域の協力を得て月2回実施しています。水田とその周辺の病害虫の発生実態を観察し、予測をしながら必要な防除対策を適期に行うためのものです。地域ごとに発生は異なるため、市町村における調査は極めて重要になります。近年、カメムシによる被害が増加していますので、調査結果と対策をご紹介します。

【調査方法】

- 畦畔(農道等)すくい取り虫数
畦畔などの雑草地で、網を20回振りすくい取りによる成・幼虫数を調べます。
- 水田内すくい取り虫数
水田内で、網を20回振り(往復10回)すくい取りによる成・幼虫数を調べます。

【阿賀野市で発生の多いカメムシ類】



アカヒゲホソミドリカスミカメ

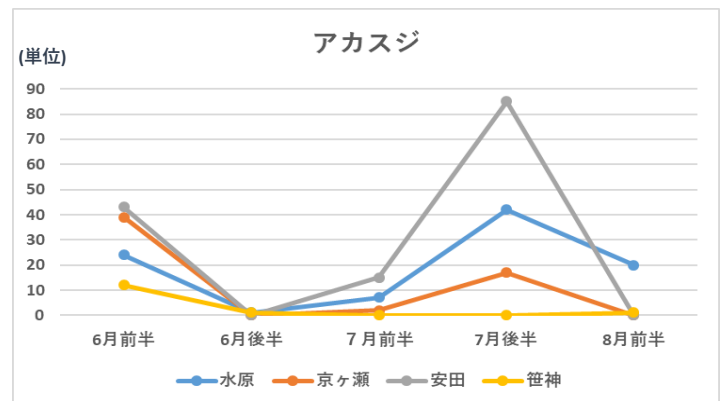
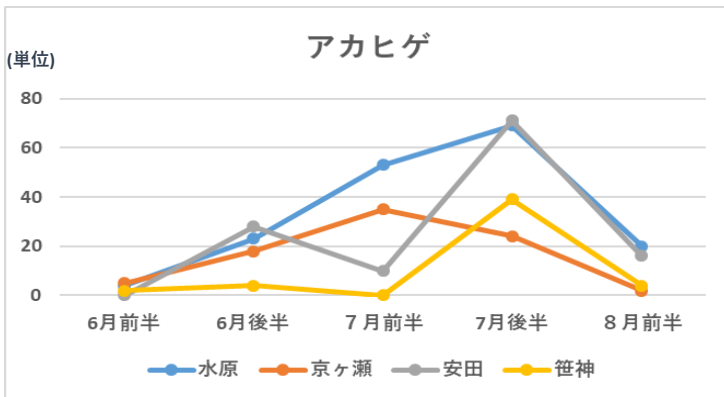


アカスジカスミカメ



オオトゲシラホシカメムシ

【畦畔すくい取り調査結果】



調査結果から、アカヒゲは全体的に6月～7月と捕獲数が増加傾向にあります。アカスジは6月後半には一旦減少しましたが、7月前半から再び増加しています。アカヒゲ・アカスジともに8月前半は水稻共同防除後に調査を行ったところがあるため大幅に減少しています。

カスミカメムシ2種（アカヒゲ、アカスジ）の発生量は斑点米の発生に大きく影響します。

以下の対策を徹底し、カメムシの増殖を抑制してください！

- 畦畔・農道等の除草を徹底し、斑点米カメムシ類の増殖を抑え、水稻の出穂期以降の水田侵入量を減らしましょう。
- イネ科雑草が出穂しない間隔で草刈りを繰り返しましょう。
- 斑点米カメムシ類を対象とした薬剤防除実施前に草刈りを行いましょう。
- 水稻の出穂期後もメヒシバ等のイネ科雑草が出穂・結実しないよう除草を継続しましょう。